

メディカルバレー 推進事業の進捗状況

産学官民連携・研究開発の促進

◆みえメディカルバレーフォーラム2007の開催

医療・健康・福祉産業に関わる県内外の産学官民関係者が一堂に会し、講演やパネルディスカッションを通じて情報の共有を図るとともに、交流会を通して人的なネットワークを広げています。

- ◆みえメディカルバレーフォーラム2007 平成19年9月4日津市市内で開催(参加者170名)
- ◆基調講演「ネットワークから生まれる新商品!!新事業!!」
- ◆パネルディスカッション「産学官連携による地方の将来像〜新しい拠点づくり〜」

◆みえメディカル研究会

大学、公設試験研究機関を中心とした、医療・健康・福祉産業分野での産学官民参加型の研究会で、産学官民が連携することにより新たな研究開発・技術開発が促進することをめざしています。19年度は、新たに統合医療研究会を加え、計11研究会(会員数延べ700名)で活動しています。(研究会の運営は(株)三重ティールオーに委託)研究会の活動内容はHPをご覧ください。 <http://www.mvp.pref.mie.jp/kenkyu/> 平成19年度みえメディカル研究会(会長 奥村克純・三重大学副学長)

No	研究会名	研究会主宰
1	生物資源有効活用研究会	三重大学(生物資源学研究所) 荒木利芳 教授
2	医用工学研究会	三重大学(工学研究所) 稲葉忠司 准教授
3	福祉用具ものづくり研究会	三重大学(工学研究所) 池浦良淳 教授
4	三重ゲノム創薬フォーラム	三重大学(医学系研究所) 田中利男 教授
5	知的財産研究会	三重大学(医学系研究所) 西村訓弘 教授
6	薬事研究会	医薬品研究センター 池田淳一 センター長
7	電子システム研究会	三重大学(工学研究所) 鶴岡信治 教授
8	みえ尾鷲海洋深層水利用促進研究会	三重大学(生物資源学研究所) 前田広人 教授
9	センシング技術実用化研究会	三重大学(生物資源学研究所) 橋本篤 教授
10	健康ツーリズム研究会	三重大学(教育学部) 杉田正明 准教授
11	統合医療研究会	鈴鹿医療科学大学(鍼灸学部) 佐々木和郎 教授

※10は19年度新開研究会

創業・新事業創出の支援

◆福祉用具製品化支援事業

三重県身体障害者総合福祉センター内に設置した「みえテクノエイドセンター」を中心に、大学や研究所、企業などと協働して、高齢者や障害者にあった福祉用具や自助具の開発、住宅改修支援などを行う他、利用者のニーズ収集や開発品等の共同開発を行っています。

- ◆「みえ福祉用具フォーラム2007」(平成19年12月15日)
- ◆福祉用具アイデアコンクール(募集期間:平成19年7月2日～10月26日、応募数111名)
- ◆福祉用具セミナー(計5回10時間)
- ◆企業が製品化した福祉用具への助言・モニタリング
- ◆みえメディカル研究会へのニーズ提供及び製品開発助言

◆三重県健康福祉ビジネスサポート(KBS)

平成14年度から実施していました「みえビジネスクリニック」のリニューアル版で、新たな製品やサービスを展開しようとする事業者を対象に、この分野の販路開拓に実績のあるコーディネータや、大手流通業者、福祉関係専門業者等の幅広い知識とネットワークを持つアドバイザーが、企業の課題や各商品に合わせた適切な販路開拓、効果的な販売促進方法について、即効性のある助言と支援を行います。



■KBSの様子

◆探採企業10社

ア)サービス関係(6社)
介護の記録と評価システム、高齢者の生きがいづくりメニューを内容とする生涯学習事業、Jomon料理、地域密着型小規模多機能ホーム+地域の憩いの場的なサロン事業、出張理美容生活支援サービスなど
イ)ものづくり関係(4社)
小型はき物脱臭殺菌庫「スティデオ」、紙オムツ処理パック機「エコムシュウ」、足を守る靴の中敷きフットアシスト「らくじき」など

◆スケジュール

8月上・中旬 企業訪問
9月～3月 事業展開にあわせて担当コーディネータがマンツーマンで事業をサポート。専門家との定期的な面談で事業展開を助言。個別相談会(第1回11月6日、第2回1月29日)
11月9-10日 リーディング産業展(四日市ドーム)に4社出展(商品のみ2社)

◆健康・福祉ものづくり研究開発補助

健康・福祉分野のものづくりに寄与する研究開発・技術開発を促進するため、事業者と大学研究者が共同で実施する研究テーマを募集し、3つの研究を選定して事業補助しました。

No	補助先	研究テーマ	共同研究の相手先
1	株式会社エイチ・アイ・エスファクトリー	紫外線と光触媒による脱臭の時間短縮	科学技術振興センター
2	富士電機サーモシステムズ株式会社	過熱蒸気を利用した滅菌装置の開発	鈴鹿工業高等専門学校
3	イシズム株式会社	超音波・低周波に対するノルアドレナリン作用による体脂肪軽減機器開発	鈴鹿医療科学大学

企業誘致の促進

企業立地室、東京・大阪事務所と協働して、この分野の企業へのPR・誘致活動を行っています。

- ◆GNI-外国企業誘致地域支援事業(海外医療・健康・福祉関連企業招へい) 平成20年1月22日(火)～1月24日(木)

情報提供の充実

◆メディカルバレー通信・HP等からの情報発信

メディカルバレー推進事業の総合情報の発信を目的に、メディカルバレー通信第11号(11月1日)、第12号(2月1日)を発行するとともに、4つのHPにより情報提供を行っています。

◆展示会に出展してのPR

- ◆「BIO2007(ボストン)にてPR(平成19年5月6日～9日米国)
- ◆「産学官連携推進会議」に出展(平成19年6月16日～17日京都)
- ◆「国際バイオEXPO」に出展(平成19年6月20日～22日東京)
- ◆「バイオジャパン2007」に出展(平成19年9月19日～21日横浜)
- ◆「バイオリンクフォーラム2007」に出展(平成19年9月20日横浜)

推進体制の整備

県内産学官民組織を代表する役員で構成する「みえメディカルバレー推進代表者会議」、産学官民関係者による事業推進組織である「みえメディカルバレー企画推進会議」等を開催しました。

また、医療・健康・福祉産業分野の経験豊かな人材をメディカルバレー推進サポーターとして、12名(薬事分野9名、健康・福祉分野3名)を委嘱しています。医薬品研究センターで相談を受けた企業に対し、サポーターを派遣し、サポート・アドバイスをしています。

薬系人材の確保・育成

県内企業、薬局、病院等の薬系技術者確保のため、県薬剤師会が運営する薬剤師無料職業紹介所で総合的な斡旋を行っています。また、県外薬科大学の訪問や大学が開催する企業説明会への出展など三重県出身者への情報提供を進めるとともに県庁でのインターンシップ受入れを進めています。(インターンシップU・I・Jターン支援事業)

- ◆大学訪問(平成19年6月、平成20年2月 関西6大学、東海・北陸4大学)
- ◆就職ガイダンスを開催(平成19年8月19日 津市)
- ◆インターンシップの受入れ(平成19年8月 三重県庁)
- ◆企業説明会に出展(平成19年12月8日:金城学院大学、平成20年1月10日:名城大学)

臨床治験体制の構築への展開

県民への高度先端医療や良質な医療の提供をめざし、関係機関と連携して迅速で質の高い治験の実施を支援しています。

◆みえ治験医療ネットワークの推進

ネットワークシステムの調査・研究を三重大学に委託し、みえ治験医療ネットワークシステムの推進を進めています。

- ◆臨床試験・治験の人材育成とシステム構築に関する調査・研究



■シンポジウム

◆治験協力者・県民への情報提供及び普及啓発

- ◆治験推進シンポジウム(平成19年8月24日 三重大学)参加者100名

◆治験コーディネータの育成・確保

治験ネットワークの円滑な運営を行うための治験コーディネータ(医師と協力して治験計画の管理、インフォームドコンセントを得るなど、治験全体を調整する役割を担う者:CRG)を育成します。

- ◆CRC 治験事務局担当者研修会(平成20年2月7日開催予定)
- ◆治験講習会(平成20年1月18日、1月25日)

バイオ産業の創出

県内の豊富な天然資源や大学等の研究ポテンシャルを活用した研究開発促進や大学発・企業発バイオベンチャー支援を行うことで、県内に医療・健康・福祉産業の主たるシーズ提供産業となるバイオ産業の創出をめざします。

◆天然資源を活用した研究開発

ア)天然資源実態活用調査

県内の天然資源を活用したバイオ産業の創出を目的に大学や企業と協力し、天然資源活用調査部会(部会長 田中俊弘 岐阜薬科大学教授)を設置し調査を実施しています。
◇今年度調査内容 北勢地域における植物資源調査、海洋資源調査及び全県調査

イ)天然資源実用化研究開発

天然資源の基礎的研究とともに薬用植物資源などを原料とした医薬品、化粧品、機能性食品などへの実用化のための開発研究を行います。
◇研究内容 キハダを利用した化粧品等の開発、ブドウ果皮の機能性成分を活用した食品の開発

ウ)天然資源活用バイオ関係研究開発委託研究

大学研究者と事業者が共同で実施する天然資源を活用した研究で、医療・健康・福祉産業分野におけるバイオ産業の創出、振興につながる研究テーマを募集し、3つの研究を選定して委託しました。

No	研究者	所属	研究テーマ
1	荒木利芳	三重大学大学院生物資源学研究所	酵素処理アマノリを素材とした機能性食品の開発
2	加納 哲	三重大学大学院生物資源学研究所	アコヤガイ真珠層タンパク質の化粧品素材への利用可能性に関する研究
3	富田昌弘	三重大学大学院工学研究所	高感度医療用バイオセンサーをめざした最先端モノクローナル抗体作製技術の開発

◆バイオベンチャー企業等研究開発補助

県内の医療・健康・福祉分野バイオベンチャー企業等の研究開発を促進するため、県内大学等との共同研究開発に要する費用の一部を補助しました。1研究テーマが採択され、共同研究を進めています。

No	補助先	研究テーマ	共同研究の相手先
1	株式会社	微生物を用いた水産未利用資源の有効活用的高度化	三重大学大学院生物資源学研究所

医工連携開発の促進

医工連携型医療機器類の研究開発を促進するため、研究テーマを募集し、下記の2研究テーマを選定して委託しました。

No	研究者	所属	研究テーマ
1	吉村哲郎	三重大学大学院工学研究所	細菌及びウイルス感染症に対するリボソームワグチン自動製造装置制御部の開発
2	川中曾晴	三重大学大学院工学研究所	国際機能分類評価を取り入れた介護記録システムの製品化に関する研究開発

国際交流・連携への展開

海外の医療・健康・福祉分野との産学官連携を促進し、企業間や大学間などの技術連携や企業誘致、投資などを活性化するため、ドイツのピオコンバレー(メクレンブルグ・フォアポメルン州)及びメディコンバレー(スウェーデン、デンマーク)などの海外バイオ関連産業クラスターとの大学間、企業間の交流・連携を、ジェトロ(日本貿易振興機構)と協働して引き続き実施しました。

本年度は、ジェトロの地域間交流支援(RIT)事業に採択され、中国南京・瀋陽地域の企業や大学と三重県内の企業や大学との業務連携や技術連携など相互協力体制の構築を目的に、産学官が連携してミッションを派遣するとともに、中国からの有力企業を招へいし、連携を深めました。

- ◆中国南京・瀋陽地域に訪問団を派遣(平成19年10月17日～24日)参加者27名
- ◆中国有力企業を招へい(平成20年1月21日～25日)

地域再生計画及び構造改革特区活用の促進

平成16年6月に国から認定を受けた地域再生計画「みえメディカルバレー創生計画」を実現するため、知的財産の活用、外国人研究者の活用等により、研究成果の事業化、ベンチャー企業による新事業展開、新産業の創出を促進します。

◆みえメディカルバレー知的財産活用促進事業

大学や中小企業等のシーズの特許化促進と大学等が所有する未利用特許の企業への移転促進を支援することで、知的財産を企業経営に活かした事業活動を活性化させ、大学発ベンチャーの創出など新産業創出と既存企業の競争力向上を図ります。(シンクタンクへ委託)。

- ◆相談窓口 知財ホームページ(<http://www.mie-mvp.jp/net/>)の開発
- ◆先願事例・海外事例の調査(平成19年4月～平成20年3月)
- ◆知財活用・流通セミナーの開催(平成19年7月2回実施)
- ◆知財活用マッチングフェアの開催(平成19年11月9日～10日 四日市ドーム)

※リーディング産業展みえ2007と同同時開催

◆メディカルサロンの開催

地域の産業振興の促進、地域独自の方策を産学官民で協議し、本計画の具体的な取組や新たな地域再生計画策定につなげるための検討の場を提供します。

- ◆健康サービスについて産学官によるフォーラムを開催(平成19年4月25日、11月28日/鳥羽市)
- ◆地域振興について産学官民による検討会を開催(平成19年8月27日/尾鷲市)
- ◆統合医療について産学官によるフォーラムを開催(平成19年9月14日/鈴鹿市)
- ◆薬事企業を中心とした産学官民によるフォーラムを開催(平成19年11月7日、平成20年2月8日/伊賀市)

◆外国人研究者活用研究開発プロジェクト

海外のバイオフォーラム等に参加し、海外研究者と県内産学官の研究者との交流を深め、外国人研究者受入の素地をつくとともに併せて国際的にメディカルバレーをアピールするため、「BIO2007ボストン」JETRO日本ブースに出展し、またアリゾナ州商務省主催のバイオサイエンス研究開発企業・研究所ツアーに三重大学の協力を得て参加しました。

- ◆BIO2007ボストン(平成19年5月6日～9日 米国ボストン)

また、ドイツピオコンバレーとの交流が継続されるように、ピオコンバレー企業情報の収集や連絡窓口業務をジェトロベルリンに委託しています。

- ◆ドイツピオコンバレーの企業動向について(<http://www.mvp.pref.mie.jp/ie>に掲載)

人材の育成

◆メディカルバレー創造的人材育成事業

県内企業と大学などが行う共同研究事業に、大学院生を主担当として継続して参画(あるいは企業担当者を大学院へ在籍)させることで、着実な研究成果をあげると同時に高度専門人材を育てるもので、その際に企業が負担する経費(共同研究経費や人材育成経費など)の一部を補助するものです。本年度は、下記の5研究テーマを選定して委託しました。

No	補助先	カリキュラム名	研究テーマ	共同研究の相手先
1	テリカフーズ(株)	三重大学バイオ・メディカル創薬プログラム	ヒト疾患モデルの薬理ゲノミクス研究	三重大学大学院医学系研究所
2	株式会社ジェネティックラボ	三重大学バイオ・メディカル創薬プログラム	新薬候補化合物の薬理作用ウーベリンス評価法の研究開発	三重大学大学院医学系研究所
3	社製油(株)	三重大学バイオ・メディカル創薬プログラム	脂質の新規機能性評価に関する研究	三重大学大学院生物資源学研究所
4	太陽化学(株)	三重大学バイオ・メディカル創薬プログラム	メタボリックシンドロームを予防する食品素材の開発研究	三重大学大学院医学系研究所
5	株式会社リボソーム工学研究所	三重大学博士課程インターンシッププログラム	組換えエプロテオソームの開発と応用	三重大学大学院工学研究所

メディカルバレー知的拠点の支援

大学のサテライトラボや薬系大学・バイオ系学部等の設置など医療・健康・福祉産業分野の知的拠点整備の取組を支援するとともに県内企業や大学の知的ポテンシャルを向上することで、産学官民連携体制の強化や研究開発機能の充実と集積を進め、新産業の創出や新事業への展開を促進します。

◆知的拠点整備支援

伊賀市内に研究拠点の設置を検討している三重大学や教官に対して、研究拠点に入居を希望する教官と地域企業等のシーズマッチング調査や事前調査研究等の研究委託を行いました。

No	研究者	所属	研究テーマ
1	前田 広人	三重大学大学院生物資源学研究所	地域と連携した大学のサテライトラボの機能に関する研究

鈴鹿医療科学大学薬学部の設置後必要となる県内での人材育成や共同研究、薬剤師実地研修、企業インターンシップ、就職活動などを展開していくための企業、市町、薬事工業会、薬剤師会、大学などによる広範な産学官民ネットワーク構築のために関係者で構成する検討会を開催しました。

◆知的拠点活性化支援

国等の競争的研究資金などの獲得にむけた複数企業や産学官民連携型の新連携・コンソーシアム組織による研究会の設置・運営に対して費用の一部を補助しました。

公募の結果、次の3テーマが採択され、競争的研究資金の獲得に向けて活動しています。

No	補助先	研究テーマ
1	(株)プリンシプル	制御盤製作における設計から製造までの自動加工技術の開発
2	(株)アーリーバード	メテータータイム旅行企画の基礎となる健康保険組合、患者団体などの意識調査
3	(有)石馬メッツ	地域の健康サービス拠点作りのための意識調査